

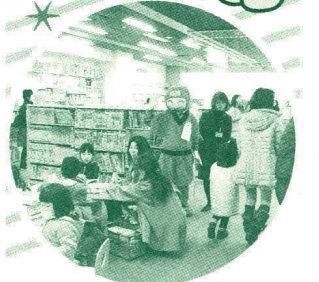
さいたま来ぶらり通信

さいたま市図書館報 2013年3月15日発行

Contents

図書館トピックス 武蔵浦和図書館が開館しました…1
わがまちSai発見 「八百比丘尼」の伝説を求めて…2,3
本棚ぶらり 花いろいろ…4,5
ハロー!来・ぶらり 大宮西部図書館三橋分館/お知らせ…6

武蔵浦和図書館が開館しました



図書館のマスコット「としよ丸」が開館を盛り上げました

平成25年1月4日(金)、

サウスピアの2・3階に、市内24館目の図書館として、武蔵浦和図書館が開館しました。駅から徒歩1分という便利な立地にあり、吹抜けのある、明るく開放的な雰囲気図書館です。

武蔵浦和駅改札口と図書館入口のある3階は、屋根つきの歩行者デッキでつながっています。近くにお住まいの皆様に加え、通勤、通学の途中でも、お気軽にご利用いただくことができます。

★どんな資料があるの？

幅広い分野の資料をそろえています。また、テーマに沿った資料を使いやすくまとめたコーナーもあります。

●子育て支援コーナー

子育てに役立つ情報を集めました。

●大活字本コーナー

小説類を中心に、活字の大きな図書があります。

★注目の設備は？

児童室内にはガラスパーテーションで仕切られた「おはなし室」があります。靴を脱いであがり、絵本の読み聞かせや紙芝居などを、親子でお楽しみいただくことができます。また、ご自身で簡単に貸出手続きができる、自動貸出機をご利用いただけます。

★調べ物をしたいのですか？

館内には、予約・相談カウンターと児童カウンターがあり、皆様の読書相談、研究・調査をサポートいたします。

さらに、新聞記事などを検索できるデータベースや、インターネットを利用できるコーナーもあります。

窓に面した閲覧席は、自然光が差し込む、明るい空間です。読書や調べものに、ぜひご利用ください。また、お持ちのパソコンをご利用いただける、コンセント付きの座席もご用意しました。

開館時の資料数(概算)

一般書	66,000冊
児童書	32,000冊
C D	1,700点
新聞	26紙
雑誌	150誌

1月4日という年明け早々の開館でしたが、オープンを待ちかねて来館された方で、館内は初日から賑わいました。
1月中に3回開催されたイベントには、150人以上が参加する盛況でした。開館から1か月の2月3日現在、来館者数は累計約8万6千人(約3200人)、貸出点数は累計約11万7千点(約4300点)となっております(内は一日平均)。貸出のうち約65%は自動貸出機によるものです。これからも、地域の期待に応え、皆様の暮らしに役立つサービスを充実させていきたいと思えます。

住所 さいたま市南区別所 7-20-1
サウスピア 2・3階
(入口は3階です)

電話 048-844-7210

開館時間 平日 午前9時から午後8時まで
土日祝日 午前9時から午後6時まで

休館日 月曜日(祝日の場合は開館し、翌々日の水曜日が休館)
年末年始、特別整理期間



「八百比丘尼」の伝説を求めて

八百比丘尼伝説ゆかりの地



市内には、数多くの「八百比丘尼」に関わる伝説が残っています。この「八百比丘尼」とは文字通り、800歳まで生きたといわれる比丘尼（尼僧）のことです。古代若狭国出身で、諸国を巡行し、橋を架けたり、道路を直したりなどの慈善事業を行ったといわれています。

年齢からして架空の人物としか思えませんが、それほど長寿の理由は、人魚の肉を食べたためと、延命地蔵を信仰していたからとも伝えられています。その足跡を示す伝説は、日本海沿岸を中心として全国に分布しています。

今回は、市内に残るこの尼僧の足跡を追ってみました。さて、そこには何が見えてくるのでしょうか。

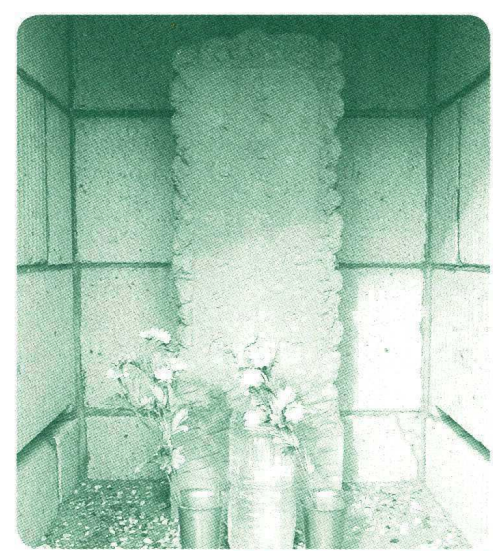
然記念物)。樹齢は1000年ともいわれ、樹勢なお盛んで美しい枝の広がりを見せています。このケヤキも八百比丘尼が植えたものといわれ、また、日枝神社一帯は古代の寺院の跡と考えられていて、「ひくく堂」の存在を示す古地図もあります。

⑤黒谷の椿の老木 (若槻区黒谷)
黒谷の民家に伝わる伝説です。若狭(いまの福井県南部)

①八百姫神社 (北区植竹町)
中山道の東の細い道に寄り添うように、八百姫神社があります。といっても小さな祠だけです。中に石碑が祀られており、正面に「八百姫大明神」、側面には、八百比丘尼がここに松を植えた跡であることが刻まれています。八百比丘尼が植えたといわれる松が、かつてはここにあったことがわかります。

の漁師が、黒谷の民家から美しい娘を嫁として迎えましたが、その嫁が披露宴で食べた料理は人魚の肉でした。嫁は全千年を取らず、800年たった後も、なお若い娘のような装いで再び黒谷の里に帰ってきました。いつのころか、人々は娘を八百と呼ぶようになり、のちに八百は出家して尼僧となりました。

この民家には、八百比丘尼が持っていた杖が根付いたという椿の老木や「玉椿」と題した比



慈眼寺の八百比丘尼の碑



こじんまりとした八百姫神社

②慈眼寺 (西区水判土)
かつて、仁王門の左手には、5人が両手を広げたくらい太いヒイラギがありました。この木は八百比丘尼が植えたものといわれ、お寺の火災の際には木尊を火災から守ったという伝説があります。また、江戸時代に境内から掘り出された黄金仏は、八百比丘尼の守護仏ともい

われ、今も寿地蔵として祀られているといえます。境内には、八百比丘尼の碑もあります。

③観音堂 (大宮区櫛引町)
昔、この境内にはケヤキの大木2株があり、江戸時代の『新編武蔵風土記稿』には「櫛の大木二株あり(略)共に囲二丈許あり、相伝へて八百比丘尼が植る所なり」と記されています。



観音堂の渋谷正彦の碑

現在、お堂の前には、「八百姫のうえし 二本もかぎりあれば なごりくちせぬ 石ぶみぞこれ」と彫られた渋谷正彦(幕末の国学者平田篤胤の門人)の歌碑が残っています。

④大久保の大ケヤキ (桜区大久保領家)
大久保領家の住宅街の一角にある日枝神社の神木で、幹回り9m以上の巨木です(県指定天

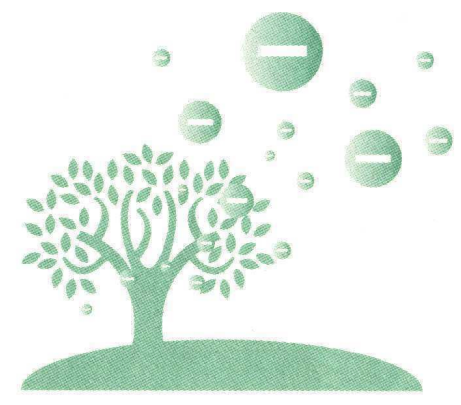
丘尼の肖像画があったといわれています。また、近くの黒谷貝塚は比丘尼が食べた貝を捨てた所だという伝説もあります。

これらの伝説に多く共通することは、八百比丘尼の植えた木が大木に育ったということのようです。もちろん、八百比丘尼自身が架空の人物ですから、この話は事実ではありません。しかし、このように大木に八百比丘尼の伝説が残るということは、数百年も生きた大木には霊力があると感じ、それが800歳という長寿の尼僧の姿になって語り伝えられたのではないのでしょうか。

昨今流行の、体にいいといわれる森のマイナスイオン。昔の人たちは、木の持つ不思議な力をこんな伝説からも伝えていたのかもしれない。



大久保の大ケヤキは市内でも屈指の巨木



【参考文献】

- 『谷川健一全集 15 地名』富山房インターナショナル 2011年
- 『ちよつと笑える昔ばなし 1』小沢さとし著 ほおずき書籍 2011年
- 『日本の古寺大巡礼 一度は参詣したい大本山』新人物往來社 2010年
- 『岩槻の伝説』(いわつき郷土文庫第2集) 岩槻市教育委員会 2002年
- 『日本怪奇幻想紀行 1之巻 妖怪/百鬼巡り』同朋舎 2000年

本棚 ぶらり

花 いろいろ



春は花の季節。様々な花を、本で楽しんでみましょう。

誕生花事典
日々を彩る花言葉ダイアリー
鈴木路子監修 大泉書店 2010年



植物に象徴的な意味を持たせることは、古くから文化的伝統として受け継がれてきました。ノアの方舟にて「オリーブの枝」を鳩が啜（くわ）えて戻ってきたことから平和の象徴とされたり、イギリスやフランスの貴族社会において、花言葉での秘かな恋のやりとりで使用されたり。そうした花のエピソードや特徴、花言葉などを、閏日を加えた366日の誕生花として紹介するのがこの本です。

たとえば、5月14日の芍薬は、日本では「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」と美人の形容に用いられますが、ヨーロッパでは、ローマ時代から17世紀頃まで、薬効を理由に「悪魔を退けるのに役立つ」と信じられてきたそうです。

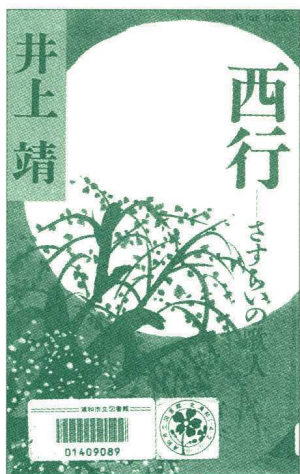
また、マーガレットの花びらを一枚ずつちぎり「好き、嫌い、好き……」とする花占いは有名ですが、実はマーガレットの花びらはほとんどが奇数のようです。さらに、フランスでは「愛している、少し愛している、とっても愛している、

全然愛していない」とするようで、国民性の違いを感じさせます。きれいな写真も目をひき、手元に置いておきたい1冊です。

西行

―さすらいの歌人

井上靖著 学研 1991年



散るを見て帰る心やさしく花

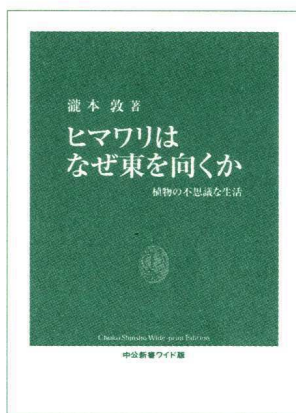
昔にかはるるしなるらむ

花や月をことさらに愛し、「花の歌人」として名を知られる平安時代の歌人、西行。世は宮廷を中心とした政治から、源平争乱へと移りゆく最中で、自然を愛でながら心穏やかに歌を詠んでいられたような時代ではありませんでした。検非違使の息子として生まれ、自身も御所を守る武士であった西行（俗名・佐藤義清）が何故、23歳の若さで出家の道を選んだのか。その理由や、彼の実生活や人間関係など、多くのことが未だにはつきりとはわかっていません。

この西行が、若かりし頃から晩年まで

に詠んだ六十余首を、作家の井上靖が、現代語に移しました。出家して間もない頼りない心境や、陸奥への旅上での感慨。摂関家の権力争いや、歌人としても知られる崇徳院の不遇を憂う気持ち。源平の争いによって訪れた地獄絵への嘆き……。著者は歌を作られた時期ごとに分けて、それぞれの時代背景に照らしながら歌をよみとき、西行が歌にこめた想いを探っていきます。

ヒマワリはなぜ東を向くか
瀧本敦著 中央公論社 1986年



ヒマワリは日本語だと「向日葵」と表記しますが、スペイン語やフランス語でも「太陽について回る花」だそうです。ではヒマワリは、本当に太陽の動きを追って花の向きを変えるのでしょうか。その謎に迫るのがこの本です。

実際、ヒマワリのつぼみは、沈む夕日を追いかけて西を向き、翌朝には東を向きます。

やがて花を咲かせるころになると、ヒマワリのつぼみは東に向きを固定しま

す。その理由としては、「東を向いていると朝日があたり、夜露が早く乾燥するので病原菌の蔓延を防ぐことができる」という説があるそうですが、それならほかの花もみな東向きに咲きそつなも。なぜヒマワリだけが東を向いて咲くのでしょうか。

本書では、この「ヒマワリはなぜ東を向くか」のほかにも、「アサガオの花はなぜ朝開く」や「数十年に一度の周期で咲く竹は、なぜその周期が来たことがわかるのか」といった、花や植物にまつわる興味深い話がおさめられています。

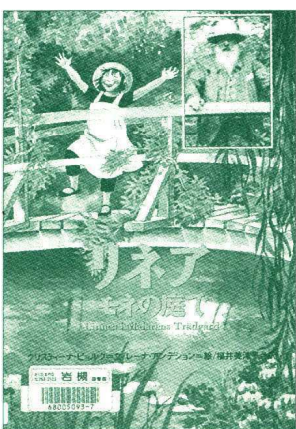
春の息吹を感じながら植物の神秘に思いを馳せてみてはいかがでしょう？

リネア モネの庭で

クリスティーン・ビョルク文

レイナ・アンデション絵

福井美津子訳 世界文化社 1993年



北欧の国、スウェーデン。短い夏の時期は白夜の季節ですが、長い冬の間は、殆ど太陽が顔を出すことのない暗く寒い日々が続きます。過酷な環境の下でも、

人々は雄大な自然と向き合って生きてきました。この絵本は、そんなスウェーデンに暮らす植物好きの少女、リネアを主人公にした絵本シリーズの二作目です。一作目『リネアの小さな庭』では植物栽培のノウハウを扱い、二作目『リネアの12か月』では身近な自然観察の記録を歳時記風に綴り、そして本作品では、モネの「睡蓮」に憧れて、リネアはパリに旅立ちます。

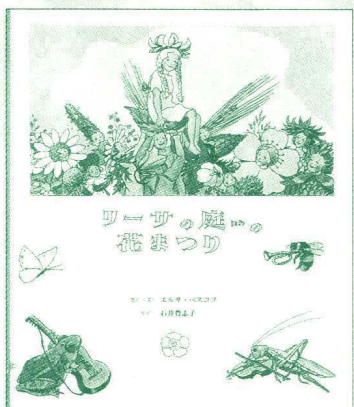
ジヴェルニーに保存されているモネが住んでいた家と庭園や、「睡蓮の間」があるオランジュリー美術館などを訪れます。フランスの穏やかな光と咲き乱れる花々に魅了され、ついに、睡蓮の池の日本風の橋の上に立つたとき、リネアは涙が出てきました。光に対する「真の印象」を描き続けたモネの生涯も、深い共感をもって取り上げられています。



大人も楽しめる 絵本の世帯

第3回

リーサの庭の花まつり
エルサ・ベスコフ作・絵 石井登志子訳
童話館出版 2001年
（旧版『リーサの庭のはなまつり』
文化出版局 1982年）



森のはずれの小さな家に、おばあちゃんと住んでいるリーサ。家の庭にはきれいな花壇や野菜畑があり、垣根の外まで花でいっぱいです。ある日リーサが庭で遊んでいると、夏至の精が現れ、花のしずくをまぶたに注ぎ、妖精のように自由に動き回る花たちの姿を、リーサにだけ見えるようにしてくれました。

1914年。作者のエルサ・ベスコフは、世界的に有名なスウェーデンの絵本作家です。6人の子どもを育てながら、数多くの物語、絵本を遺しました。

いよいよ夏至まつりの始まりです。美しいバラの女王がお客様の花々を歓迎し、草原の花たち、森の花たち、池や沼の花たちが集まってきました。家の中の植木鉢の花たちだって、ドアを開け、階段を降りてきました。すると、なにやら垣根のほうで騒々しい様子。花たちと野菜たちが、庭に雑草が入り込むことを嫌がり、仲間に入れてもらえない雑草たちが騒いでいるのです。でも、今日は一年に一度の夏至まつりの日。そこでバラの女王は……。

世界には、「花」や「虫」を擬人化した妖精が登場する芸術的な古典作品が、多くあります。ドイツの絵本作家ジビュレ・フォン・オルファースによる『ちようちよのくに』（案理絵子訳 平凡社 2004年、原書…1916年）や、スイスの絵本作家エルンスト・クライトルフによる『花を棲みかへ』（矢川澄子訳 童話屋 1983年、原書…1926年）といった作品などです。

この本の原書が出版されたのは

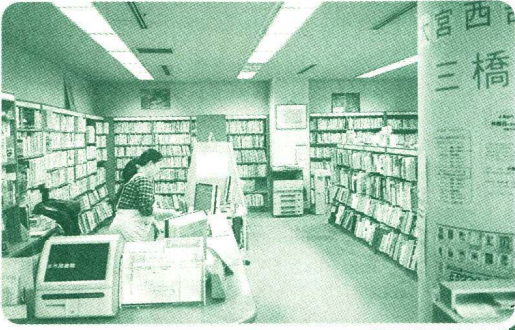
エルサ・ベスコフは、そうした系譜の絵本作家の中で最も世界の子どもたちに愛され、これからも愛されるでしょう。



大宮西部図書館 三橋分館

春になると、満開の桜並木で多くの人の目を楽しませる西区の三橋総合公園から、新大宮バイパス（国道17号）に沿って北へ歩くと、大宮西警察署がみえてきます。今回ご紹介する大宮西部図書館三橋分館は、その西隣にあるさいたま市西部文化センターの2階にあります。平成12年に開館した図書館で、地域の方々に親しまれています。階段を昇って2階にあがると、正面が図書館です。おかつて左側のエリアには、雑誌や児童書、一般書が並んでいます。そして右側のエリアには絵本や紙芝居、新聞、CDが並んでいます。

さいたま市図書館の中では一番面積が小さい図書館ですが、1階からの吹き抜けに面した開放的な雰囲気の中で、ゆったりと読書が楽しめる空間となっています。所蔵点数は3万4千点と少ないながらも、要望に即した本を置いてあります。また、さいたま市のほかの図書館から取り寄せすることでご要望にお応えしています。



カウンターまわりは実用書など人気の本が並んでいます



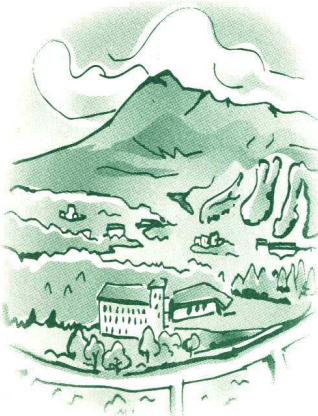
さいたま市西部文化センター。図書館はこの2階

毎週木曜日にはボランティアの方々による、読み聞かせや手あそび、わらべうたなどのおはなし会を行い、好評をいただいています。三橋総合公園や西部文化センターにお越しの際には、ぜひ、三橋分館にもお立ち寄りください。

第13回現代短歌新人賞 受賞作が決まりました

さいたま市が主催する「現代短歌新人賞」は今回で13回目を数えます。平成24年12月2日（日）の選考会で選ばれたのは、福島県在住の高木佳子さんの歌集『青雨記』（いりの舎 2012年）です。

「高木佳子歌集『青雨記』は第Ⅲ部の父の死と葬儀にかかる痛切な悼歌、第Ⅴ部の「見よ」の東日本大震災による無残な傷痕の歌に加え、新鮮な角度から自然や身边を写実的にうたった作品を含む、すぐれた業績を評価した。」（選考委員会講評、さいたま市ホームページより）
作品や選考過程についての記事が、雑誌「ミセス」（文化出版局）2013年3月号に掲載されています。図書館でも所蔵していますので、ぜひご覧ください。



編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<http://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <http://www.lib.city.saitama.jp/m/> （下のQRコードを読み込んでください）

北浦和図書館 832-2321	桜木図書館 649-5871	春野図書館 687-8301	与野南図書館 855-3735
南浦和図書館 862-8568	大宮西部図書館 664-4946	大宮東図書館 688-1434	岩槻図書館 757-2523
東浦和図書館 875-9977	三橋分館 625-4319	七里図書館 682-3248	岩槻駅東口図書館 758-3200
桜図書館 858-9090	北図書館 669-6111	片柳図書館 682-1222	岩槻東部図書館 756-6665
大久保東分館 853-7100	宮原図書館 662-5401	与野図書館 853-7816	武蔵浦和図書館 844-7210
大宮図書館 643-3701	馬宮図書館 625-8831	西分館 854-8636	

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100

★★編集後記★★ 武蔵浦和図書館が開館しました。駅に近いということもあって、連日多くの市民の方にご利用いただいています。武蔵浦和駅にお越しの際には、どうぞお立ち寄りください。

次回発行：2013年7月30日（年3回発行）

